

第4回 鎌倉市観光基本計画策定委員会 会議録

日時；平成18年5月25日(火) 14時から15時45分まで

会場；鎌倉市役所 第3分庁舎1階 講堂

出席委員；菅原副委員長（以下、あいうえお順）

大嶋委員、大津委員、城戸委員、國生委員、小西委員、中根委員、
浜田委員、藤川委員、古谷委員

出席職員；相澤次長、宮田課長、中野課長補佐、鈴木主事

傍聴者；4名

会議の概要；

第2期観光基本計画の構成案について意見をいただいたところ、さらに検討が必要ということになった。

議事の概要；

1. 開会のあいさつ

2. 庶務事項

副委員長；

第4回策定委員会を始めます。次第に基づき進めます。庶務について事務局から。

事務局；

会議の公開については、本日の会議を公開するという事で広報かまくら5月1日号で傍聴者の募集を行いました。その結果、本日は4名の参加をいただいている。傍聴者の方にお話ししますが、お手元の資料は委員に配布したものと同一なので、お持ち帰りいただいて結構です。また、会議の円滑な運営にご協力いただき、録音・写真撮影などをご遠慮ください。

会議録につきましては、先日修正の依頼をお願いし、確認いただいたものとして確定します。

委員長；

傍聴者の皆さんにはご協力により会議が円滑に進むようお願いいたします。第3回の会議録については確定といたします。

3. 審議事項

(1) 第2期観光基本計画（構成案）について

副委員長；

それでは審議を始めます。第2期観光基本計画について事務局から説明をお願いします。

事務局；

説明に先立ち、配布資料の確認をさせていただきます。「資料1 第2期観光基本計画 構成案」「資料2 方針比較、実施事業案」及び「第3回策定委員会会議録」の3点となります。

それでは、資料1の第2期観光基本計画構成案に沿って、説明をします。

今回より、新たな計画のことを、「第2期観光基本計画」と呼びますが、計画書の全体イメージをつかんでいただくために、1ページに、現時点での全体の構成案を示している。

構成は、全体を4つに分けて、第1章で「策定にあたって」として、計画の位置づけや平成8年以降の環境の変化、そして策定に向けての課題等の整理を。第2章では、基本理念と計画の全体目標、基本方針を。第3章では、計画の具体的な取り組みとして、各課の実施事業やソフト的なアイデアなどをまとめたものを。第4章では、計画の推進体制について、まとめたいと考えている。後日調整という部分は、今後まとめる予定である。

では、それぞれの項目について説明します。2ページをご覧ください。

第1章の2「平成8年以降の鎌倉の観光を取り巻く環境」は、この10年間の社会情勢の変化や市の取り組みの概要を説明している。この部分は前回提示したものと同じですので、説明は省略する。

次に、3ページをご覧ください。第1章の3「新たな観光基本計画の策定に向けて」は、今後の動向、課題等をまとめているが、こちらは若干手直しているが、前回とほぼ同じ表現となっている。

4ページをご覧ください。第2章の1は、「基本理念」ですが、前回のとおりに、現計画の表現をそのまま踏襲するものとして、その内容を具体的にイメージさせるために、「住んでよかった、訪れてよかった」まちとは、いったいどのようなことを指すのかを、理念の次で、説明している。こちら、前回とほぼ同じ表現になっているが、「住んでよかった、訪れて良かった」の最後にありました「心をこめたおもてなしはするけど、決して媚びたりすることのないこだわりの精神を観光客と共有したいと願っている」という部分を、「鎌倉らしい生き方や精神性を観光客の方にも理解していただければ、住んでよかった、訪れて良かったまちづくりに繋がり、鎌倉の魅力を末永く後世に伝えることができる」としている。

次に、5ページをご覧ください。第2章の2本計画全体の目標指標として、今回新たに作成した部分である。これまでの策定委員会、庁内検討会でも計画の目標を何で捉えるのか、というご意見をいただいていた。特に、観光客数の多い少ないにこだわるのではなく、今来てくれている人が「また来たくなるような」「いずれは鎌倉に住みたい」と思っていたような取り組みをすべきと指摘されてきたところである。

そこで、一般的に観光振興を示す目標値として使われている「観光客数」を主たる指標からはずし、「観光客の満足度」と「市民の満足度」を指標とすることにしている。

観光客の満足度は、現在、観光課のホームページでのアンケート調査を数値として把握することが出来る。ちなみに、17年度は、「鎌倉に来る前の期待と比べて全体的に満足いただけましたか」との間に、普通以上の満足を感じた人の割合として、87.7%をあげている。また、「市民の満足度」は、観光都市でありながらも住宅・生活都市でもある本市の2面性を考慮し、観光振興がまちに活力を与えるプラスのイメージへ転換していただけるよう市民の理解を得ていくことが重要であることから、経営企画課が昨年実施した市民意識調査の「鎌倉市は、観光に高い魅力と独自性のあるまちだと思いますか」の間に、「とてもそう思う、少しそう思う」と回答した市民の割合 65.0%をあげている。

最終的に、目標値をそれぞれ何パーセントにするのか、またアンケート結果だけを指標にしては、その時々々の社会情勢などに影響されやすいのではないかとといった問題点・課題もあるのではと思っている。しかし、計画の進捗状況を精査し、取り組み結果を評価していく推進

体制が整備されたときに、この計画全体の目標が、「地域が一体となって、鎌倉の良さ、鎌倉らしさを理解していただくこと」にあるとしたら、ただ単に「観光客数」の増減で評価することはできないと考えて、敢えて観光客、市民の満足度を指標としたものである。

ただし、「観光客数」を指標としないということではなくて、例えば、現状維持を目標値に設定して、客観的な事実を計ることも必要と考えている。

6ページをご覧ください。第2章の3基本方針についてですが、「資料2方針比較、実施事業案」の1ページも合わせてご覧ください。こちらにあるのが、前回の策定委員会の際に提示したもので、おおきくソフト、ハード、推進体制の3つに分け、今後、積極的な取り組みが望まれるソフト部分を上段にすえて体系整理したものでした。

その案については、「現行計画と比較して、ソフト、ハードの分け、10年後のイメージ、目標指標の設定などは分かりやすい」「一方で、「歴史的遺産の保全」は、今でも一番重要なので、個々の項目の上に来る骨太の方針ではないか」「ソフト、ハードより、市民、事業者、行政など、取り組み主体別のほうが分かりやすい」などのご意見をいただきました。

これらのご意見等をふまえ、委員長と中根委員にもお時間を頂戴して相談させていただいて、再度、新たな構成案を提示させていただくこととした。資料2の右側2ページに新しい案を現計画との比較の形で示している。

新たな基本方針については、やはり順序が取り組みの重要性を示すと思われてしまうことから、ソフト、ハードの分けより「歴史的遺産と自然の保全」など、これまでどおり踏襲していく基本的なものを第一にする。次に、現計画では進捗が遅れていた「新たな魅力の創出」を、特にこれから取り組まなければいけない項目として位置づける。以降、「多様な観光行動への対応」や「安全で快適な観光空間の整備」などのハード関連の項目を続けて示していく。

この流れのほうが分かりやすいと判断して、新たに5つの方針にまとめました。

方針1は、「歴史的遺産と自然、まち並み景観の保全を図りながら、観光資源としての活用を図ります。」として、現計画の方針1に「まち並み景観」を加えて、引き続き、保全と活用を図っていくものとしている。

方針2は、「新たな魅力の創出によるまちの活性化を図ります。」として、地域全体として、観光客が長く滞在したくなるような取り組み、イベントなどを商店街など中心に取り組んでいこうとして、現計画では、5の「鎌倉観光の質の向上をはかる」と6の「観光による経済の活性化」を合わせる形で、2番目にもって来た。

方針3は、「多様な観光行動への対応と鎌倉らしいおもてなしの充実を図ります。」として、現計画の3「観光客、市民、事業者の相互理解」を継承する形で、情報提供の充実や観光振興の担い手の育成、各観光主体の連携をはかることによって、鎌倉らしいおもてなしの充実を図るとしている。

方針4は、「安全で快適な観光空間の整備を図ります。」として、いわゆるハード的な整備をまとめている。

最後の方針5は、前回同様、「評価と連携をめざした推進体制の構築」をそのまま提示している。資料1の7ページ以降には、方針ごとに、市民、事業者、来訪者、行政の役割分担や10年後のイメージ、個別目標指標の内容などを示すレイアウト案を掲載している。

以上で、説明を終わります。

副委員長；

何点か質問させていただき、皆様にもご確認いただきたい。

今回は、第3回の会議録によって皆様のご意見を集約して、それを具現化したものということで良いか。後半の方などはすぐわかりやすく、穴埋め問題のようでこれに入れてい

けばだんだん出来ていくのかなというイメージが膨らむので、たいへん結構だと思う。

前回6項目あった基本方針が5本に絞り込まれているが、前回の会議のときにも順番を決めるということであったか。

事務局；

読まれる方が、順番があるように思ってしまうというご意見でしたし、庁内の検討会の中でもやはりそういうところがありました。

副委員長；

分かりました。それで5項目にまとめられたということですね。次に、「鎌倉らしさとは」の部分について、「鎌倉の魅力を末永く後世に伝えることができる」と願っています。」と変更し、新しくアピールして行きたいところということによろしいですね。

委員；

5ページの「本計画全体の目標指標」の中の現状値が、観光客満足度が87.7%、市民満足度指数が65%ということですが、逆に満足しなかった観光客の12.3%の内容とか、市民の残りの35%について、その理由などの言語データなどはあるのか。

事務局；

観光客の満足度は、ホームページ上で実施しているもので、その中にコメント欄があり書き込みもありますが、あまり意見というのではなく、たまにあっても「トイレが汚い」「案内標識が分かりづらい」などである。実際にはまだ件数も少なく、携帯からの回答もあるのでコメントは少ない。市民満足度は、企画経営課の所管なので内容確認しておりません。

委員；

観光客の満足度指数の87.7%は他と比べてどうか。

事務局；

他の自治体と比較してということだと、比較するデータがあまりなくて把握できていない。観光について、市民の満足度を取っている事例もあまりないと思うが、こういう指標を計画に使うところも、最近1、2の自治体であるので、まったくのオリジナルではない。

副委員長；

市民満足度指数の質問の文言は。何と質問して満足だという回答なのか。

事務局；

市民意識調査は、「鎌倉市は、観光に高い魅力と独自性のあるまちだと思いますか」の間に「とてもそう思う」、「少しそう思う」と答えた人の割合で、満足という聞き方ではないので微妙に違う。

副委員長；

「独自性を持つ」ことに対してそう思うかどうかですから、これをいきなり「満足」ととっていいのかちょっと疑問がある。

委員；

5ページの目標指標の数字ですが、年代層も、性別も、あるいは住んでいる地域も分からないままこの数字が一人歩きすることはどうか、皆様のご意見をいただきたい。

3ページの「これからの体制」に対しての図表ですが、来訪者いわゆる観光客はどこにあたるのか、市民、事業者は人であり人格ですよ。だとすると、真ん中にある観光というのが人を表すのか、観光の何を表すのかがもう一つはっきりしない。もしも観光客でないとするならば、この1次産業とかNPOと同様に来訪者（観光客）というものを一つ丸で作る必要があるのではないかと。

資料2の2ページ、新たな基本方針ですが、前回の素案から比べると具体性を担保していないという印象があるが、どこでどんな風にしていこうということなのか。

資料1の7ページ、10年後のイメージを書くようになってきているが、最終年の10年ということなら、たとえば3年ずつ出していくという考えがあってもいいと思うがどうか。

事務局；

目標指標にアンケート結果を使うことについては、その時の社会情勢や相手方の主観で大きくぶれる可能性があるので、ぜひご議論いただきたい。

図表については、分かりやすく修正したいと考えている。それから資料2、具体性をどう担保していくかということでは、4月に全課を対象に観光に関する事業の洗い出しを行い、17課から41本の事業が出されたところである。こうしたことから、行政が着実に実施していく部分に、これから皆さんからいただくご意見・アイデア等を合わせ、なるべく方針に沿った事業展開をしていきたいと考えている。前回の計画は、方針はあっても実施計画がないということがあったので、今回は方針ごとに必ず事業、アイデアを貼り付けたいと考えている。

10年後のイメージ云々は、3年ごとあるいは10年が適切か、ご意見をいただきたい。

副委員長；

ありがとうございます。先走るようですが、8月には方針を会として出さなければならない。今回は4回目で、あと何回あるのか。

事務局；

今回の委員会でご意見をいただいて、次回7月の段階で整理、8月にパブリックコメントとして市民に出す予定である。

副委員長；

まとめるまで今回含めて2回ということで、なかなか大変であるが今回のだいたい絞りこまれてきた基本方針などについて、まさに計画を具現化していくに当たってのご意見をいただければありがたいと思うのでよろしくお願いします。

委員；

鎌倉市の観光基本計画全般に期待するものとして、「鎌倉らしいおもてなし」をどう表現するか、それは観光の時代だからといって、媚びた観光をしましようということとは逆の話で、鎌倉市だからこそ、変に媚びない、うわつかない。他にはない歴史的遺産、自然、環境などを保全しながら訪れた方をおもてなしする、大事にするというスタンスのニュアンスが、全体に貫かれていることが大切ではないか。

今回の目標指標については、これまでも各地の観光計画づくりのお手伝いをしてきたが、数字だけ掲げると、数字の伸びだけを見てしまうということ全国ですと踏襲してきたと

ころである。

もちろん数字は大事ですが、その数字の意味するところとか、内容、質のことをきちんとイメージして、数字と合わせて目標に掲げているかどうかが大切ではないか。5ページの下段に書かれている趣旨がそうだと思う。

観光客満足度指数、市民満足度指数は、それぞれ別の調査だと思うが、これはこの計画の目標というよりも目標とする指数の一つだと考えるべきで、数字は出してもいいと思う。

観光客の満足度を他のアンケート事例で見ても、87%はすごく高い数字だと思う。市民の65%というのも、なかなか観光について取ることはないが高いと思う。ここで挙げてる意味は、例えば、市民の65%をもっとあげるとしたら、市民の皆さんに鎌倉の観光に対して、もっとこうしようという提案をしたり、観光客ばかりでなく市民に対してもこういうことをしましようみたいなことを、数字とその中身の質の目標とをセットで掲げることで、数字の一人歩きを防げることになると思う。

観光客数についても同様に、鎌倉市は人数ばかり増えても困るので質を大事にする。だから、1800万を1900万ぐらいとか、あるいは2000万を超えないとかにして、むしろ中身をこうするというのを踏まえて書かなければ数字を書くこともいいと思う。

6ページの方針4で、「ユニバーサルツーリズム」と表現しているが、社会全般ではユニバーサルデザインとかバリアフリーという表現なので、浸透しているとはまだ言い切れないので、誰にでも優しい、満足していただける観光地、あるいは旅行を目指すということで注釈をどこかにつけるとかしたほうがいい。

7ページ以降については、基本方針ごとに各主体の役割、施策、10年後の目標という構成になっているが、整理し直したほうがいい。行政、民間、事業者が連携して進めるという役割のことをここに盛り込みたいというイメージだと思うが、行政のところいきなり各課が取り上げている施策を入れており、方針1の歴史的遺産を云々にぶら下がる鎌倉のなすべき、取り組むべき施策はこれだけではない訳で、民間主導でやるような施策もあるはず。

まずは、誰がやるかは別として、どういう取り組み、こういう具体的な施策があるんだということを挙げた上で、それを実際誰が中心になってやるべきなのかというのが、この(1)で書かれてくるのではないか。

まち並みの景観の保全などは、行政だけでやれる話ではないので、この中にはたぶん市民の方々に担っていただかなければならない役割もあると思うので、並べ方のところを工夫された方がいい。

副委員長；

ありがとうございました。表の穴埋めの状態のところですが、もっとやれるところもあるし、市民も事業者も来訪者も意識して負担をしていけるような書き方がベストではないかというご意見でした。

委員；

今日提示されました案は、私の印象では、10年前の観光基本計画の方針の書き方と変り無いものに戻ってしまったように思われます。10年前の基本方針は内容的には立派なものですが、現在鎌倉市民はその内容をほとんど覚えていないでしょうし、行政施策として何が実施されたかも判っていません。市民は、観光基本計画を日常的には意識に思い浮かべていないと思います。従って、新基本計画策定に当っては、市民に分りやすく、覚えやすいようにまとめることがポイントになると思います。

素案の検討過程で、先ず市民の観光に対する意識を高めてもらうため、市にとって如何に観光が重要な産業であり、街の活性化や街づくりの中心課題であるかを、市民に認識しても

らうかが大切であると指摘され、且つ鎌倉らしい質の面での変革が必要であるとのことで、「観光都市鎌倉の質の向上を図ります」の方針が打ち出されたのだと理解しています。また、観光に係わる諸施策や基盤整備については、ほぼ10年前の計画に出揃っていることであり、これを踏襲することでよいと思われるが、問題は計画を如何に実行するのか、どのような推進体制を組織するかが大事であるということで、大方の委員の意向がまとまったものと認識していました。

前回、「質の向上（ソフト的政策）」、「基盤・施設の整備・保全（ハード的政策）」と「推進体制の構築」の三つに基本方針を大括りすることに賛成を得たはずではなかったのですか。基本計画のまとめ方としては、「質の向上」の項で三つの（中位）基本方針、「ハード的整備」の項で三つの（中位）基本方針を各々具体的に整理記述している素案の線で行くことが理解されやすいと考えます。今回の第2期計画（改訂）案は五つの基本方針で述べられ文章化されているが、分かりにくく、10年前のものと同様としか受け取れない。今回の基本計画策定の趣旨のポイントは、鎌倉を観光文化都市として立派に仕立て上げていく実行性と、更には市民をこのプロジェクトに係らせるにはどうするかということなのではないでしょうか。具体的実施案については、市民のアイデアを募集したら、いろいろ妙策が提案されると思います。

もう一つ私の疑問は、この計画を実施するための資金・予算をどうするのかということで、単に計画を作るだけでは意味がない。資金手当ての筋道を示さないと、10年後の目標云々と言っても絵に描いた餅にすぎず、市民が納得できる筈がない。

鎌倉市は観光行政で、ハード面の諸施策をこう進める、質の向上のためこう考えているとかを市民に提示し、協力を求めていけば、市民の満足度も上ってこよう。国土交通省は、「ようこそ ジャパン」という、観光立国のキャンペーンに乗り出しているが、京都・奈良・鎌倉の古都三都市はそのイメージの筆頭に位置しているはず。とすれば、鎌倉市だけで観光問題に対応するのではなく、国や県に対して強く訴え、支援をうることが必要だと思います。

副委員長；

大嶋委員の意見の基本になるところは、素案であった3つの柱を5本にしたのはなぜかということだが。

事務局；

前回までの議事録などを読み返すと、今までのような3本の形でいいという意見や、主体別に分けた方がいい、あるいは歴史的な遺産というところがもっとも大事だろうという意見もあり、完全に分かれてしまったと認識している。

そこで、委員長と中根委員にも相談しましたが、その場でこうしたらという結論はいただいていません。それを持ち帰り、庁内での検討会等での意見なども踏まえ、整理をかけたほうがいいのではないかとということで提案したものである。

なぜ変えたのかは、前回の反省から基本方針に事業をきちんと貼り付けたい、今は行政の事業だけですが、皆さんのご意見をプラスすればまとまって分かりやすくなるのではと判断した。ご意見をいただきたい。

委員；

大嶋委員のご意見を支援する気持ちで、前回の3つのほうが分かりやすいがゆえにどこに参画できるのかが重要ではないか。

基本方針の5は、「情報の公開に努めます」とあり、求められれば公開するというように聞える。主体であるコーディネーター役がどんどんアウトプット、情報を出していくという

イメージが望ましいのでは。公開というよりも発信していくスタンスが重要。

委員；

行政内部の部門間バランスで案を作成するのでなく、観光諮問会議の様な色々な人が係われ議論する場を用意し、審議することが必要となるのでは。

委員；

先日、商工会議所の観光部会が開かれたが、商工会議所も新体制になりこれから商工会議所をどうしていくかということで事務局から話があり、会議所としては中間的なコーディネーターとしての役割を果たしていきたいと表明している。

商工会議所が全て出来るというわけではないが、今までの体制のままだとこの10年とあまり変わらないと思う。

委員；

前回の方が分かりやすく具体的で、ストレートに入ってくる感じがしている。今回の案は、また分かりづらくなったような気がしている。

委員；

前回の3つのくくりは、方針というよりもハード・ソフト・体制ということで、表裏一体の部分もあるといった議論もあったと思う。基本的にこの3つと今回の5つは同列ではないと認識している。前回の「質の向上を図る」ということであれば、今回の「2魅力の創出」とか「3おもてなしの充実」は、それに入ると思うし、方針のさらに上を何というか、コンセプトと言うのか、ピラミッドの段階がひとつ増えるとわかりにくくなると思うが、前回の3つに今回の5つはあてはめることもできると思う。

まとめ方として、ぶら下がる3つが非常にシンプルでわかりやすいなら、再整理して並べたらいいのではないかな。

委員；

担当事務局がまとめた基本方針や具体案の内容が悪いといっているわけではありません。施策の内容に異存があるわけでもありません。計画案を外部に提示する仕方としては、素案の方が理解されやすいかなと考えているのです。

委員；

今までの10年があってここに立っている。中身は10年前と変わらないと思う。それを大きく変えていくには、キャッチフレーズが必要なのではないかな。そこから枝分かれしていくような何か、鎌倉の観光に対してひとつ何かを打ち出すべきでは。

委員；

ハード・ソフトは、入り組んでいる部分があるので分かりにくい。この3つの案で広報担当としてポスター展開するならば、質の向上、基盤の整備、機構の構築として、市民でも誰でも覚えられるかなと思う。それからブレイクダウンしていくというのが必要で、誰でも理解できなければ意味がない。鎌倉観光の3つを覚えて欲しいということです。

委員；

賛成で、市民にどこまで根付くか、来訪者にもイメージだけでもいいが、分かるようにし

て欲しい。細かく読み込む人はいないと思うので、イメージとして出るような何かがほしい。

委員；

10年前と取り組みの施策が変わっていないというのは、外から見ると進歩していないと思われるようだが、実は皆やるべきことが見えていて、続けなければいけないからこそ同じ施策に取り組まなければいけない訳です。

10年前と違うのは、方針5であり、今後どうやってこの計画を進めるか、観光にかかわりのない一般の市民が納得して、誇り・自負を持って鎌倉の観光が根付くようになるのか、そのためにはどうしたらいいかがポイントのなると思う。

基本理念で、「住んでよかった、訪れてよかった」というキャッチフレーズを出しているが、これも最近あちこちで使われている。趣旨はこれとしても、さすが鎌倉らしいというのがあれば、一つのアドバルーンになると思う。

逆に、方針5が今回の計画では1番大事という割には、行政の施策が薄い。そういう部分が鎌倉市に限らず遅れてきたのだと思う。横断的なネットワークというか、これからの話としてははっきり見えてきているので、ここをかなり市民レベル、NPOなどの連携などを入れて、どういうことに取り組んでいくか書き込むべきだと思う。

委員；

資料1の7ページの方針の図表のところ、行政の一番良くないところは縦割りなところで、方針1の到達目標をどういう状態なら達成なのかが分かるようにするのが一番大事ではないか。観光行政だけでは達成しない、行政の関連部署との計画と一つになったときに達成すると思う。そういう意味でこの表はすごくよいし、どこがどう向かっていくのか行政としてはこういう計画が必要ではないか。まちづくりが中心でよいし、その中のひとつが観光であるし、特に鎌倉なら観光を前面に出していくべきだと思うが。

結論としては、素案の方が分かりやすい。1はソフト、2はハードが多い。ハードは時間年月がかかる、極めて財政とセットになっているもので、達成度を見るには素案のほうが分かりやすい、取り組みやすい。一方で、行政の横断段的な取り組みはどうするのか、皆さんが言われている主体はどこか、それが市民になることが大切ではないか。

方針5ですが、私は観光に関する統計を作らなければならないと認識している。現状の観光統計がなくては、本当の評価は出来ない。目標指数で数字を出すことは大事だが、出す以上はどこが良くて悪いのか、その原因が分かるもの、課題解決のために何をするか分かるようにしないとイケない。行政は現行の反省を出さない。何が問題かを出すことが、市民にも分かりやすいのではないか。

委員；

観光をめぐる関係者の位置付けの体制図は、一步の前進とは思。鎌倉は、街がそのままフィールドミュージアムといってもよく、観光資源は有り余る程沢山あり、何が一番目に重要で、何が二番目、何が三番目であるという風には言えない。観光を全体的に考えると、それぞれの要素を有機的・立体的に結びつけ、ソフト事項とハード事項とをないまぜにして、考えてみるべきと思う。

委員；

観光産業とは言わずとも、基本計画を、誰の何のために作っているのかをもう一回思い起こしてみると、市民、事業者が別れている。これが不思議で難しい。市民であり事業者、市民といわれる市民も皆がここにかかわった成果・満足度をとらえることが、この計画の成果

であると思う。

やりにくさ、やりやすさはちょっと置いといて、ハードルは高いけど、こういう鎌倉を作りましょうというのを議論したらどうか。

事務局；

今日の資料は、私ども行政が勝手に作ったものではなくて、皆さんの意見とか会議録の内容を検討し、かつ委員長にも相談させていたいたが、それらをまとめるとこうなったということでご理解いただきたい。なお、日程については、8月にはパブリックコメントを行い、10月にはまとめたいとしているが、決まりがあるわけではないので、皆さんのご意見がまとまらなければ表には出せませんので、もう1回、2回とご足労いただくようなことになることもありえます。

副委員長；

5つの方針で、ここはもっと強くした方がいいなど具体的にご意見をどうぞ。

委員；

方針5の「統括できる体制の構築を図り」について、ここをしっかりと固めないとその後の責任はどかがとるのかというところを議論した方がいい

委員；

方針5は、あまりにお役所的な書き方になっているので、もう一度練り直した方がいい。これまでの議論で出た推進していく体制が大事で、チェックするとか評価することを方針とする訳ではない。市民も含めて、これからの観光をどう推進していきたいかを書けばいい。そのためには、数字を出すことも必要で、それを横断的な体制で、それぞれの役割の中で、皆でチェックしていきましょうということではないか。仕組みの話なので、重要である。

委員；

鎌倉観光機構というような組織を作って、行政、観光協会、商工会議所、宗教界、観光業者、市民グループなどの関係者が集まって、横の連絡が取れる場を設ける必要があるのではないのでしょうか。

委員；

そういう場の設定のために、組織づくりを検討するとか、たちあげるのかが、施策のひとつになると考えればいい。実は3ページに、推進体制のイメージを描いている。これを推進する体制・仕組みを作ることを、もう一度方針としてうたえばいいのでは。具体的には、情報発信の体制、人材育成、市民への啓蒙とか、それがいろいろ施策として出されてくると分かりやすい。

副委員長；

責任の所在は、どういう風に盛り込んだらいいと思うか。

委員；

そういう組織を作ると言い切ったほうがいい。基本計画で曖昧模糊のままいかないで、作って継続していくとまで言い切ったほうがいい。そのほうが、作ることが決まったんだからやらざるを得ないとなる。

委員；

作ることが目標になると、10年かけてつくることになるのでは。

副委員長；

観光協会とダブルところが出てくるようでは。

委員；

現実的に見ていけば観光協会との関係をどうするのというのも当然出てくる話で、そこも合わせて作るということを目標にして、何年かでやりましようとしておけば、観光協会のあり方なども鎌倉にとってどれがふさわしいのか見えてくるのでは。

委員；

実は、観光協会の中でも見直しをされていて時を同じく動いているので、決してハレーションを起こすものではないと思っている。

委員；

「体制の構築」を具体的にどこがどうやってやるのかを入れたほうがいいのか。

委員；

基本計画としては縛りすぎかもしれない。

委員；

推進体制というのは、1から4のいろいろな施策を推進していくところで、それらをまとめていく体制は一つではない。課題によって、いくつか出来てもよい。方針5の「連携と評価を目指した推進体制の構築を図ります」は『各施策の実現に向けた効率的な推進体制の構築』とかになるのではないか。

副委員長；

そういうことを盛り込んでほしい。

委員；

市、事業者、来訪者・行政になっているが、事業者の中に具体的な名前を盛り込むのか。行政なら課名が具体的に挙がっている。逆に市民・来訪者は、特定できないと思うが。

委員；

行政は具体的な施策があるから並べられる。役割の前に、この方針を実現させるために、どういう施策をやるべきかがないから分からなくなっている。前回のは、3つの方針にぶら下って、トイレの整備などの表現があったので分かりやすかった。

方針に沿って、たとえばでもいいからこういう事業をやるという事業計画を出して、それを誰が中心になってやるのか、行政の計画だから行政だけというわけではなく、ソフトの部分なら市民の役割が出てくるといったことをそれぞれ書き込めばいいのではないか。

委員；

八幡様の前を通ると頭を下げる美しい姿が鎌倉らしさや、宗教都市・信仰空間であること

などが大切であると思うが、基本方針で質の向上を図りますと明確に表記されているほうが分かりやすい。子ども役割としては、歴史的遺産の保全について声を大きくして守る、訴えねばならないと考えている。心の安らぎを与えるために何をしているか、表現できる場がほしい。その意味で、推進体制や組織作りにも参加したい気持ちでいる。

委員；

前にも言ったかと思うが、修学旅行などで子どもたちが鎌倉を訪れるにあたり、将来鎌倉を愛してくれる子どもたちに対しての具体的な施策をひとつ入れていきたいと思う。

小学生を迎えると、いい顔をしてお行儀が良い。こういう子どもたちをもっともっと鎌倉を訪れて、文化発祥の地に来て学び取る場を与えたいと思う。

委員；

情報として、6月28日に海水浴場がオープンしますので、ぜひ一度見てほしい。

副委員長；

今日話できなかった部分については、書面で事務局に出していただけたらと思います。では次回の予定を事務局からお願いします。

事務局；

資料2の5、6ページにこれまでのアイデアをまとめたものを示しているので、これらについての具体的な意見などありましたら、方針案などと同様に来週末までにいただきたい。

次回、5回目は7月3日（月）の14時から16時になる。次第の中では、全員協議会室となっているが、第2委員会室に変更になりますので、お間違えのないようにお願いします。

副委員長；

長時間にわたりありがとうございました。委員長欠席のため、つたない司会になりました。本日の結果については、委員長ともよく打ち合わせをしていただければと思います。では第4回策定委員会を終わります。

<終了>